

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100424		
法人名	社会福祉法人 なごみ		
事業所名	グループホーム みなみふくしま		
所在地	福島県福島市永井川字松木下34-6		
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご家族は、入居者とともに支え、本人にとって、安全で安心な普通の生活を送っていただけるような支援に努めている。一人ひとりにとって、居心地の良い場所であるように本人の想いを汲み取りながら、認知症の進行を少しでも和らげるような環境整備を含めた支援を今後もしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はチームワーク良く、理念についてケアサービスの中で検証し合っている。法人代表者は職員から意見を聞く機会を設けており、職員意見が運営に反映され、利用者にとって過ごしやすい空間と雰囲気を作り出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に作成した事務所独自の理念があり、職員全体で理解に努め共有している。また、入居者一人ひとりの生活歴に想いをよせ、ご家族・職員・地域住民という大きな輪の中でお互いに支えあえる関係づくりを目指している。	職員自らで地域密着型サービスを踏まえた理念を作り上げた。ともに作り上げたことで、全員が共有し、利用者が毎日笑顔で過ごしていただけるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のフラダンスサークルによる定期的なボランティア訪問や、ホームでの行事の際の行事食を近隣の方にお届けしたり、中学校の体験学習の受け入れ等を通して地域との交流を心がけている。	町内会に加入し、盆踊りや清掃活動などの行事に参加している。近所の子供たちが遊びに訪れたり、地域住民が大雪時に除雪を手伝ったり、野菜を差し入れてくれるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所のお子さんが気軽に訪問してくれたり、中学校の福祉体験受け入れの際に、入居者とのふれあいの時間を設けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催しており、ホームの様子を伝える際には、現状における課題を提起しご家族を含めた率直な意見を頂くことでサービス向上に活かしている。	会議では、委員とサービス向上について話し合っている。避難訓練に住民参加の提案があり、チラシを配布して参加を呼びかけている。外出ではドライブ先の提案を受け入れるなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉課の職員と連絡体制が取れており、定期的な現状報告、懸案事項等の相談を通し協力体制を築いている。	事業所は地域包括センターと利用者の状況について、電話をしたり直接出向くなどして相談している。市からも定期的に事業所を訪れて、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通し、身体拘束の禁止行為を正しく理解した上で、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	法人研修や外部研修に参加し、身体拘束のないケアについて理解を深めている。職員は、声掛けや車椅子の乗り降り時での支援などの日々のケアの中で、問題はないかを話しあい、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止の研修会に参加し理解を深めている。また、日々のケアにおける小さな気づきをスタッフ間で共有することで虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	さまざまな角度から入居者の置かれている状況を把握して、制度の活用が必要と思われる入居者のご家族に対し制度の説明を行い、制度の活用ができるように支援している。また、現在日常生活自立支援事業を活用している入居者がおり、職員もこれらを通じて制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、入居者に対し重要事項説明書に基づき、契約、解約時には十分な説明を行い同意を得ている。また、不安や疑問点がある場合は、いつでも言ってもらい、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡時等は、直接意見を聴ける大切な機会と心がけて対応している。また、1年に1度法人で実施している入居者及びその家族の満足度調査(アンケート)での結果等から頂いた意見や要望に対し運営に反映させるよう努めている。	家族の意見は、面会の時に聞くようにしている。面会がなかなかし難い遠くの家族の場合、電話や手紙を通じて行っている。食事や、買い物の要望を受けて、外食支援や買い物支援を行うなど、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の代表者等が随時に事業所へ訪れることや電話連絡等で率直に意見交換が出来ている。また管理者は、現場の意見や提案を随時に拾い上げ、定期的に行われている法人の会議にて運営に反映させている。	法人代表者は毎月、事業所を訪問し、職員と直接話し合っている。予備の車イスの導入や服薬の工夫、状態変化に対応した就寝方法の改善など、職員の提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に対し、現状の報告や要望を随時行うことで職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの立場や能力等に合わせた事業所内外の研修に積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加したり、法人内介護事業所、他事業所との意見交換などにより、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時及び入居時にご家族からの情報提供のもとに本人の状態を把握し、安心できるサービスを受けて頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族が本人の生活に対して感じている不安や要望について話し合いを行い安心していただけるような関係づくりに努めている。また、入居後に本人の状況変化があった場合それに伴うご家族の心理の変化にも配慮できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望を踏まえアセスメントを綿密に行い、今、必要な支援が何かを把握したうえで、初期のサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、共に支えあう関係を大切にし、時には入居者から生活の知恵を教えていただくなどお互いが垣根を持たず感謝し合いながら穏やかに生活していけるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの関係性を尊重しつつ、ご家族の負担にならないよう考慮しながら電話や面会等の方法で共に支えていく協力関係を築くように努めている。また、面会の折には職員が短時間でも同席し共に支えあう意識作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出を積極的に支援しながら、また、なじみの方が面会に来やすいように声掛けし、面会の際にはゆっくりと過ごしていただけるような対応に努めている。	墓参りやなじみの店に行きたい、という要望が多いので、家族と連携して支援している。友人が訪ねて来た時は、お茶出しや会話に参加して、利用者が楽しめる支援をしている。馴染みの床屋さんには、定期的に訪問してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者の性格や性別、認知症の状態を把握した上で人間関係に十分配慮し、必要に応じて最小限度の調整役を心がける支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の退所後も、面会を心がけ、事業所間では、ご本人やご家族についての情報交換をし、ご本人の暮らしの継続性が失われないように支援に努めている。退所後のご家族からの電話や来所による相談に応じることもあり、これまでの関係性を断ち切らない取組みを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、全職員で日々の関わりの中から、入居者の想いや意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりに希望や意向を聞き、把握している。意思疎通が困難な方で、なかなか思いを表現できない利用者には、家族や本人がリラックスしている時に寄り添い、言葉をかけながら、表情の変化などから把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中でのご本人との会話や、ご家族からの情報を基に把握した生活歴やエピソード等を申し送りに組み込みケアに反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや暮らし方などを理解すると共に、その時々々の言動や心身の状態を記録し、それに応じた一日の過ごし方を提案しながら入居者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者本人の心身の状況を把握し、また、ご家族の面会時に意見の交換を行い、それらを反映させた介護計画を作成している。また、状態変化時は随時計画の見直しを図っている。なかなか面会に来ていただけないご家族もおられ電話での対応になることもあり今後はそのようなご家族を交えた定期カンファレンスを定着させることが今後の課題である。	利用者本人の意向を基本に、家族の意見を反映した介護計画を作成している。状態が変化した時には、家族と事業所看護師と職員を交えてモニタリングにもとずいた介護計画を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の他に、必要に応じた個別のチェック表や状況変化に対応した申し送り記録により統一したチームケアの実践に繋げている。今後は、より有用性のあるケース記録の統一に努めることが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の意向、ニーズ等状況変化に応じて、インフォーマルな社会資源の活用や意向等に応じた独自のサービスを検討する等柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアサークルや民生委員・地域包括との繋がりを大切にし、入居者一人ひとりが地域の中で、豊かに生活しているという実感が湧くよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関への定期的な通院介助をご家族と協力しながら行っており、緊急時も迅速な対応に努めている。受診や往診の際の情報提供・相談・受診後の経過報告までの体制が確立されている。	利用者は希望する医師、医療機関で継続受診している。家族対応を基本に、家族が困難な場合は事業所が受診支援を行っている。提携歯科は往診で利用者の口腔ケアに当たり、良好な受診体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化の早期発見に努め、看護職員に報告し、相談や助言を基に適切な支援を行っている。さらに、看護職員と介護職員の密接な連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が可能な限り面会に行き、状態把握に努めるようにしている。また、早期退院に向けてご家族の意向を尊重しながら、医療機関との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が、予測される入居者のご家族に対して、終末期のあり方を含めた意見交換を状況変化の度ごとに行っている。また、その内容は医療機関に報告・相談しながら方針を共有して支援できるように努めている。	入居時に事業所の方針を説明している。状態変化時には家族や医師を交えて話し合っている。医療機関への入院や終末期に向けた対応など、本人と家族の意向に添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを必要に応じて、見直ししながら使用している。また、全職員が定期的な救命講習に参加している。今後はAED等の装備を充実させていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での非常災害対策研修の実施、非常災害時の対策計画があり事業所間、関係機関との連携体制を整えている。また、消防署の協力の下、入居者全員参加の避難訓練を定期的に行い、避難経路の確認をし、問題点の把握に努めた。現在、近隣の方々は高齢者が多いため、地域との協力体制については今後の課題である。	消防署と連携した避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も行っている。避難訓練の結果を参考に、1階、2階ユニットの入居基準を見直した。災害時における地域住民との協力体制構築の必要性は認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い共有スペースであるため、入居者一人ひとりを意識してプライバシーが保てるよう声のトーンを工夫しさりげない声かけを心がけている。入居者が混乱されている時は、居室に誘導し一人ひとりを尊重した対応に努めている。	利用者は人生の先輩として、本人の意志を尊重して敬意を込めた言葉かけを行っている。トイレ誘導や入浴は同性職員の介助支援を基本に、利用者のプライバシーと人格や誇りを傷つけないよう尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人との日常の会話の中から言葉の裏側に隠されている想いを汲み取るように常に心がけ、自己決定できるように支援している。また、意思表示が困難な入居者に対しては、表情やしぐさ・反応など発せられる情報から、想いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを尊重し、体調に考慮しながら本人の希望に添った一日を過ごせるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪を希望される時は、馴染みの理容師さんに来て頂いたり、また、朝の着替えや外出の際は、本人の好みを尊重し身だしなみやお洒落を楽しんでいただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みやできる力を活かしながら、調理・食事・後片付けを一緒に行っており、食事を皆で楽しめるような雰囲気作りに努めている。	栄養士の献立表を基に、入居者の好みや状態に添った食事を提供している。好みは日々のケアの中で聞き取っている。毎月の行事食や外食、要望のあった食事に応えるなどして食事が楽しいものになるよう、支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの管理栄養士が献立を立てており、栄養のバランスが整っている。また、チェック表により、個々の食事量と水分量を把握し、状況に応じ、嗜好品を取り入れる等の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。また、看護師と歯科衛生士が必要に応じて口腔状態の確認をすることで口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	これまでの習慣や排泄チェック表による排泄パターンの把握や細やかな気配りと言葉かけにより、自然な誘導と介助を行い自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にすることを目標としている。チェック表を活用し、言葉かけで早めの誘導を行い、昼間は布パンツで生活できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人ひとりの排便感覚や排便パターンの把握に努め、水分の補給や乳製品・お茶といった便秘に効果的な飲料品を取り入れ便秘の予防に取り組んでいる。また、それでも困難な場合は、看護職員と連携して重度化を防ぐように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックの結果を見極めながら、入居者一人ひとりの意向に添うように介護者の性別等も考慮し楽しい雰囲気を入浴ができるように努めている。	毎日入りたい人や一番風呂が好きというように、利用者の希望に応えた入浴支援を行っている。利用者の好みを入浴剤を使用したり、ゆず湯やしょうぶ湯など工夫を凝らし、入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を考慮しつつ、日々の体調に合わせてできる限り自然な生活リズムを整えられるように努めている。また、夕食後は、入居者が思い思いの時間を過ごしていただくことでリラックスでき、安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報を個別にファイルし、常に確認できるようにしている。変更があった場合の入居者の状態変化の観察に努め、看護師を通して薬剤師・医師にその都度疑問点等を確認しながら指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や楽しみ事等の情報収集を行い、それぞれが得意とする手芸や調理などを入居者が楽しみながら、自主的にこなせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を把握しながら、外食や買い物等の支援に努めている。季節に応じた花見や桃狩り・ドライブなど季節感を感じられる外出支援にも取り組んでいる。	近所の公園への散歩や法人本部テラスに出かけ、お茶会を楽しんでいる。季節ごとに花見やモモ狩り、日帰り温泉へのドライブなどで、外出機会を増やしている。家族にも働きかけて、毎月、外食に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら状況に応じて、少額のお小遣いを所持したり、買い物時に自分で支払うことができるように支援し本人の満足感に繋がるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望をもとに、ご家族と相談しながら電話や手紙のやり取りができるように支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を配り清潔を第一に心がけ、入居者が安心してくつろげるような、生活感や季節感を取り入れた居心地の良い共有空間づくりに努めている。	居間や廊下には吊るし雛やリースなど、利用者が作った作品を展示して季節感を出している。中央部の吹き抜けは採光がよく、加湿器を設置し、感染症対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、独りになれる場所は少ないが、テーブル席やソファの配置の工夫、踊り場の活用などで思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	入居者にとって居心地の良い場所であるように、馴染みの家具や写真や調度品などの配置や持ち込みにできる限り制限を設けず安全性や使い勝手を考慮しながら、入居者の意向が反映された雰囲気の良い居室づくりに努めている。	居室入口はツル細工や塗り絵の表札などで飾られ、利用者の個性に合わせた工夫を凝らしている。室内には動物のぬいぐるみや家族で撮った写真が飾られている。各部屋とも採光を心がけ、居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を基本に、手すりや家具等の配置を考慮し安全性に配慮した環境整備に努めている。		